



**教師と
保護者向けガイド**

3

目次

方法論と概要	2
レッスン時間の配分	3
ターゲット	4
フラッシュカード	4
ウェブリソース	4
略語	4

Happy Valley Phonics Book 3 方法論

母国語において、子供たちは未就学年齢の頃に音韻を認識し始め、小学1年生までそのスキルが向上し続けます。生徒は聞く習慣や文字を学ぶ力を身につけるなど、準備活動を通して理解力を高めます。例えば、言葉の最初、中間、そして最後の音を識別する音素認識能力がこのぐらいの年齢に発達します。さらに、押韻する言葉や韻を踏む言葉作りなどの脚韻認識能力もまたこの頃に習得されます。単語、音節、音を区別する活動、音節と音を組み合わせる活動、音節と音を操作する活動が幼稚園から小学一年生までの期間に行われ、子供たちの音韻認識に一層役立っています。

Happy Valley Phonics Book1～3は、子どもの認知発達を念頭に置きながら作成されており、Sは3文字の子音-母音-子音 (CVC) で構成される単語の読み書き、そして韻を踏む言葉をマッチさせるなど、全力テゴリーのactivityを行い、3を修了します。

Happy Valley Phonics Book 3では音声サポートがありませんので、Sは前のレベルで覚えたことをもとに自分自身で言葉を作成し、読まなければなりません。文体はカラフルなイラストで書かれています。必要であればTとSがPhonanimalsのジェスチャーを使用されることをお勧めしますが、この段階まで来ればSは自らの文字知識に頼れるのではないかと思います。

Happy Valley Phonics Book 3 概要

本書の目標

上述のように、Happy Valley Phonics BookはPreparatory (準備) とPhoneme Awareness Skills (音素の認識スキル) に重点を置いています。Happy Valley Phonics Book Starter、1、2では文字や言葉の最初の音を識別することに焦点を当てるなど、聞く習慣が強調されていました。Happy Valley Phonics Book 3ではその焦点が最初の音だけでなく中間や最後の音に移っていき、脚韻認識能力も高めます。

Happy Valley Phonics Book 3 は5～7歳のSが対象です。SはどのPhonanimalsがどの文字を表しているかをよく理解し、そのジェスチャーに慣れ親しんでいなければなりません。Happy Valley Phonics Book Starterそして1または2を終えてから本書を始められることをお勧めします。

主なユニット

ユニット1～5では組み合わせ、及び子音-母音-子音 (CVC) の読みを集中的に行い、ユニット6～10では韻踏みのactivityに焦点を当てます。ユニット1～5のActivity aではPhonanimalsを使って習った単語を書きます。Activity bでは再度Phonanimalsを使いますが、今度は新しい言葉を作ります。その後Activity cで新しい言葉作りの強化練習をします。Activity d では絵のヒントをなくし、自分たち自身で声に出しながら言葉を組み立て、Activity e で答え合わせをします。最後にActivity f ではSが全ての単語を3回ずつ書きます。

ユニット6～10では言葉の韻踏みに焦点を変えます。ユニット1～5で教わった語彙と新しい語彙を使ってSは言葉をマッチさせ、グループ化し、読み書きを行い、最後にはヒントなしで再度書きます。

復習 ページ

メインの10ユニット終了後、Sが自ら書き、組み合わせ、読んだ言葉をおさらいできる復習ページが用意されています。Sは言葉の組み合わせ、読み、書きをさらに練習することができます。下記のセクションでレッスン時間の配分をご覧頂き、これらのページをどのタイミングで使用するかを確認してください。

レッスン時間の配分

Happy Valley Student Book のように、各ユニットにつき4回レッスンを設けるようにお勧めしますが、集中的に行う度合い、ゲームを行う回数、レッスンの長さ等によって4回を前後して終了されるかもしれません。

Happy Valley Phonics Book 3はHappy Valley Student Bookのように10のユニットで構成されています。ユニット5と6の間、もしくは10ユニット全て終了してから復習ページに取り掛かることをお勧めします。

こちらの例では44週間に渡りHappy Valley Phonics Book 3を使用しています。

Week	Unit	HVP3
1	1	p. 2
2		p. 3
3		p. 4
4		p. 5
5	2	p. 6
6		p. 7
7		p. 8
8		p. 9
9	3	p. 10
10		p. 11
11		p. 12
12		p. 13
13	4	p. 14
14		p. 15
15		p. 16
16		p. 17
17	5	p. 18
18		p. 19
19		p. 20
20		p. 21
21	6	p. 22
22		p. 23

Week	Unit	HVP3
23		p. 24
24		p. 25
25	7	p. 26
26		p. 27
27		p. 28
28		p. 29
29	8	p. 30
30		p. 31
31		p. 32
32		p. 33
33	9	p. 34
34		p. 35
35		p. 36
36		p. 37
37	10	p. 38
38		p. 39
39		p. 40
40		p. 41
41	Review	p. 42, 43
42		p. 44, 45
43		p. 46, 47
44		p. 48, 49

ターゲット

50ページに記載されたターゲットは、Sの学習進度を把握するためにあります。Happy Valley Phonics Book 3の狙いは、Sが子音-母音-子音 (CVC) の単語を作る能力及び押韻する言葉をマッチさせる能力を習得することです。その能力が身につくと50ページのターゲットに色がぬられます。

フラッシュカード

Happy Valley Phonics Book 3の後ろのページにFCが付属しており、S全員が絵と言葉の両方をセットで持ち、簡単にマッチングゲームで遊んだり、自分たちで練習したりすることができます。ミシン目が入っているので簡単に切り離すことができ、時間を節約できます。

ウェブリソース

Happy Valley ブログ、Facebook、Twitter

ライティング練習シート、教師用フラッシュカード、ルーティーン、フォニックスを取り入れたゲームやアクティビティを無料ダウンロード

全てwww.happyvalley.tvでご覧いただけます。

略語

S: 生徒

T: 教師

FC: フラッシュカード